

香川県における水稻の新奨励品種「キヌヒカリ」について

藤田究・多田伸司・森芳史・石井清文*・井之川育篤**・吉田一史***

「キヌヒカリ」は農林水産省北陸農業試験場において育成され、1988年に品種登録された。本県では1984年より奨励品種決定調査に供試し、その特性について調査した結果が良好であったので、1991年に水稻奨励品種として採用した。キヌヒカリの品種特性及び栽培特性について検討した結果は、以下のとおりである。

1. キヌヒカリは、コシヒカリより出穂・成熟期が1日程度早い早生種である。コシヒカリに比べて短稈で倒伏に強いため、収量性が高く、玄米の外観品質もやや優れていた。さらに、キヌヒカリの食味はコシヒカリ並で良好であった。しかし、穂発芽性が「やや易」であり、いもち病に対する抵抗性は十分でないという欠点があった。
2. 早期栽培(5月上旬植)と普通期栽培(6月中旬植)におけるキヌヒカリの収量にはほとんど差がなく、両作期の栽培が可能であった。また、施肥法については、基肥の増量によって収量は上がらなかったが、穂肥と実肥をやや早めとする施肥法が単位面積当り籾数を増加させ、収量向上に有効であった。
3. 以上の結果より、キヌヒカリの栽培適地は県下全域の平坦地と考えられる。栽培上の留意点として、いもち病の適正防除と穂発芽回避のため、適期に収穫することがあげられる。